

蕪栗沼でマガンのねぐら入り観察

1月24日(土)、すっかり恒例となった冬の渡り鳥観察会を行いました。当日は天気にも恵まれ22名の参加のもと、化女沼^{けしよぬま}、伊豆沼^{かぶくりぬま}、蕪栗沼の3つの湿地をめぐるしました。

伊豆沼、蕪栗沼は昨年同様ですが、今年は新たにラムサール条約に登録された化女沼にも立ち寄りしました。化女沼に関してはガイドしてくれる方が見つからなかったため、資料館で解説を見て双眼鏡で雁を観察するにとどまりましたが、伊豆沼と蕪栗沼については例年同様、日本雁を保護する会会長でMELON 理事でもある呉地正行さんにガイドをお願いしました。

今年は鳥インフルエンザ騒動の影響もあり伊豆沼でも“エサやり禁止”の看板が目立ちました。そのせいで雁の数が減ったという一部報道もあり

ましたが、呉地さんによれば、今まで人間がエサをくれる場所に集まっていたのが、エサを求めて周辺の田んぼなどに分散しただけで雁の数自体は昨年とたいして変わらないということでした。雁はかしこいので人間がエサをくれるとわかればそこに集まるし、くれないとなれば他の場所でちゃんとエサを確保しているのだそうです。

伊豆沼を散策した後は、例年同様に蕪栗沼に移動し、夕刻の“雁のねぐら入り”を観察しました。寒さは厳しかったですが天候が良かったので、夕映えの空をバックに雁の群れが集まってくる様子が大変きれいに観察でき、参加者からも「この感動はここに来なければわからない。来て良かった。」とうれしいコメントをいただきました。



望遠鏡をのぞくと羽の形や色など細部までよく見えました



観察した鳥の名前をメモしたり、野鳥図鑑を片手に参加する方も



蕪栗沼では観察用のついでたが設置してありました



沼で休むガンとハクチョウ



餌付け自粛の影響で田んぼにはたくさんのハクチョウが餌を探していました